



## 身近な水の中には何がいるのかな ～水の生き物調査隊～

意識して自然に目を向けないと、身近にどんな生き物が生息しているのかわからないものです。7月8日に開催された「水の生き物調査隊」で、市内親子48人が鳥野目河川公園内の生き物を調査しました。県内で減少傾向にあるヒガシシマドジョウ、環境省レッドリストで準絶滅危惧種に分類されるトウキョウダルマガエル(写真)、特定外来種のウチダザリガニなどの観察を通して、参加者は固有種や生態系を守ることの大切さを学びました。



## 不浄を焼き尽くして 厄除け・開運 ～金乗院 火まつり～

燃え盛る炎に無病息災を祈る火まつりが6月28日、沼野田和の那須波切不動尊金乗院で行われました。参拝者が心待ちにしていたのは、湯加持や火渡りと呼ばれる荒行。長濱住職が「エイッ!」との掛け声とともに、湯加持で熱せられた釜の湯に入って経を唱えたり、火渡り(写真)で炎の中を歩くと、周囲から盛大な拍手が湧き起こりました。その後、参拝者も燃え跡を裸足で歩き、振る舞われた薬湯を飲んで1年の健康などを祈願しました。



黒磯師団

塩原師団



- ↑ 訓練の成果を存分に披露する選手たち
- ↑ 間近で見る防災ヘリの雄姿に、会場の目は釘付け。
- ↓ 上手に水を的へ当てられるかな?



西那須野師団

## 速さ、正確さ、そして気迫で勝負 ～消防操法競技会～

毎年夏に開催される消防団の消防操法競技会。今年も6月18日、25日、7月1日の3日に分けて、那須塩原消防団の黒磯、西那須野、塩原の師団ごとに競技会が行われました。

会場では、歯を食いしばって全力疾走する選手に向かって、仲間たちや観客から熱い声援が送られました。また、6月25日にはくろいそ消防まつりが同時開催され、防災ヘリコプターのパフォーマンスをはじめ、多くの催しで訪れた人々を楽しませていました。



## 塩原で詠んだすべての歌を紹介 ～与謝野晶子・寛展 開催～

塩原の歴史や文化、文学などを紹介している塩原もの語り館は、今年で開館15周年。これを記念して来年1月7日まで「鹽原遊詠 与謝野晶子・寛展」が開催されています。与謝野晶子・寛(鉄幹)夫妻が塩原で詠んだ135首の短歌や貴重な資料が紹介されているほか、期間中は8月21日午前10時からの「与謝野晶子の絵本や童話の読み聞かせ」をはじめ、多くのイベントが開催されます。詳しくは、塩原もの語り館(☎0287-32-4000)まで。



## うまく紙に写るかな ～リンツ市芸術家 木版画体験教室～

本市とオーストリア共和国リンツ市が姉妹都市となって1年が経ちます。これを記念して、リンツ市在住の芸術家フェリクス・ディーックマン氏を招待し、木版画展(市内芸術家との交流展)が那須野が原ハーモニーホールで開催されました。

また、併せて7月16日にはディーックマン氏を講師として木版画体験教室が行われ、多くの親子が参加。木版をカッターで削り、油性絵具で彩色して、彫った絵を紙に写し取る工程を楽しみました。



## 己の限界までベストを尽くして ～関東学生トライアスロン選手権～

6月25日、戸田調整池周辺で関東学生トライアスロン選手権が開かれました。今年で20回目となり、大学生の男女303人が参加。スイム1.5km、バイク40km、ラン10kmの合計タイムを競いました。日々厳しい練習に耐えている学生たちも本番は特別なもの。その日のコンディションもそれぞれが異なり、ベストタイムを出す選手もいれば、途中で惜しくもリタイアする選手も。選手が皆、懸命にゴールを目指す姿に沿道から多くの人が熱い声援を送っていました。



↓後出しジャンケンで脳を活性化。認知症予防にもつながる

## 誰もが安心して暮らせるまちとは ～認知症サポーター養成講座～

東三島自治公民館で6月23日、認知症サポーター養成講座が行われ、小学生～70代の計58人が受講しました。この講座は、認知症を学び、認知症の人と家族の応援者となるサポーターを増やすためのもの。全国のサポーター数は6月末時点で906万人を数えます。自治公民館を使って自由に受講者を募る講座の開催は市内初で、ゲームなどを交えた認知症のメカニズム解説なども好評。受講後にはサポーターの証・オレンジリングが配られました。